

桜宮地域の現状と課題（平成19年10月防災ワークショップまとめ）



<避難の判断、避難先について>

- ・地震が発生 → 自宅での生活が困難 → 災害時避難所
→ 火災発生・延焼の危険性 → 広域避難場所
- ・水害が発生 → 浸水する可能性
→ 津波避難ビル、高い建物、高台
- ・身近な公園（一時避難場所）は、家族や近隣者で落ち合う場所
→ 災害の種類や規模に応じて、避難行動を考える

<町会加入率の低下について>

- ・自主防災組織が機能しない可能性がある
（人手不足、情報不足など）
↓
○加入率アップの対策が必要→町会のPR

<生活用水の確保について>

- 水洗トイレのタンクの水（8～10リットル）
- 風呂の水をためておく
↓
○生活用水として使う

<避難所について>

- 地区住民のすべてを学校に受入れできない
 - ・グラウンドでテント（車）生活
 - ・マンション住民は自宅で避難生活
↓
○避難所外生活者のことも考える必要有
- 桜宮中学校には地区外からも避難者がくる
（知らない人が多くなる）
↓
○避難所運営には、避難者の把握が重要
 - ・物資配分、治安面（トラブル回避）

<飲料水・食料の備えについて>

- 3日目までは自助・共助で乗り切る
 - ・ペットボトル（2リットル×3～5本）
 - ・4日目からは「公助」
- 学校（災害時避難所）の備蓄
↓
○自分で備蓄しておく（家族の3日分程度）
+
○商店等から分けてもらう
 - ・避難行動要支援者（優先させる）人を考える

<広域避難場所への避難について>

- 大阪城公園への避難経路
 - ・橋は大丈夫なのか ・OBPは安全か



<家屋内の安全対策について>

- 家具の転倒
 - ・家具が倒れてけが（死亡）をするのを避ける
 - 背の高い家具をなくす・固定する など
- 窓ガラス等が割れる→飛散防止シールを貼る
- 中高層住宅での対策
 - ・高層階で揺れが大きくなる
 - ・室内に閉じ込められる
 - 揺れが収まったら、出入口を確保
 - 家具の転倒防止

<倒壊家屋からの救出>

- 老朽木造家屋等が倒壊
 - ・近所の人が出る
 - バール・ジャッキ等が必要
 - 地域の工務店と協力・連携（人・工具・重機の提供）

<帰宅困難者の問題>

- ・電車がストップした場合、京橋周辺に帰宅困難者が殺到

ワンルームマンションが多く、一人暮らしが多い

ワンルームマンションが多い
町会加入率が低い

<地域の自主防災活動について>

- 消火活動(可搬式ポンプ)
 - ・水源からホースが届く距離は限られている
 - 各家庭で消火器等の備えが必要
- 防災リーダーの役割
 - ・まずは家庭の安全を確認
 - ・次にどう動くか（地域の協力が必要）

<商店街・事業所>

- 商店街
 - ・商店街の店主の多くは区外に居住
 - 夜に地震が起きた場合、炎症が心配！
 - ・道が狭く、避難経路がない
 - ・奪い合い・略奪が起きないか心配
 - 住民自治では対応できない
- 事業所
 - ・昼間は人が多いが、夜間は人がいない！
 - ・町会に入っていない。
 - 災害時に連携できるのか心配